

《文壇花架》

張賢亮の本のことなど

青谷政明

『張賢亮選集』三卷〔百花文芸出版社 第一卷85.10／第二卷85.9／第三卷86.4〕が出版された。85年の予定が遅れたのは、「男人的一半是女人」を収めたためであろう。遅れついでに「初吻」も収めてくれれば「緑化樹」とあわせ『唯物論者の啓示録』第一部「感情的歷程」が揃うことになるので、“選集”とはいえキメこまかさが欲しかった。話題作の「男人…」は、『感情的歷程』〔作家出版 85.10〕以外にも単行本として中国文聯出版公司与四川文芸出版からも刊行。また、時代文芸出版の「新时期争鸣作品叢書」の一冊も、このタイトルで出ており、海峡文芸出版の『張賢亮集』〔86.9〕にも収められている。字句の修正・削除などはいずれもないようである。

『文芸報』〔86.11.8〕が『対外出版工作』の報道として伝えるところによれば、ともに訪米講演の経験をもつ張賢亮と馮驥才は、驥才がアメリカで出版した二冊の本がほとんど反響を呼ばなかった理由について、①中国の経済力不足、文化輸出力の弱さ ②図書発行ルートが弱く国外への供給源も不足 ③思想、意識や民族文化の隔たり ④編集面で時代の趨勢についていけず、編集工作の改善が必要、などをあげている。張賢亮は出版にあたって、作品の思想が正しいか、主題が積極的であるかどうかなど考慮する必要はない、結果的に作品が中国の暗黒面を暴露することになったとしても、そのような作品が中国で発表されたということ自体が、中国の真の民主的開放を物語り、その宣伝効果は作品そのものよりももっと大きい、と述べたという。

それから半年後『文芸報』〔87.5.12〕は、『チャタレー夫人の恋人』と張賢亮の「早安、朋友」掲載の『朔方』の発行停止を報じた。後者は新聞出版署から作家協会の検討に委ねられた。